

# 国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）  
第6校時 13：50 ～ 14：35  
対 象：4年C組  
学校名：中等教育学校  
授業者：〇〇 〇〇  
会 場：教室

## 1 科目名、単元名、教材名、教科書名

科 目 名：言語文化（2単位）

単 元 名：人間の普遍的な姿 物語を読む

教 材 名：『伊勢物語』 「芥川」

教科書名：『言語文化』（筑摩書房）

副教材：『完全マスター古典文法』（第一学習社）、『改訂増補最新国語便覧』（浜島書店）

## 2 単元の目標

ア 既習の古典文法（用言、助動詞）を活用して、本文を読解することができる。

イ 本文と合わせて和歌に込められた心情や登場人物の関係を読み取り、作品の価値を評価できる。

ウ 和歌と物語の関係性に興味を持ち、言葉を通して他者と関わろうとしている。

## 3 単元（題材）の評価規準

観点 評価	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現 (読む)	ウ 主体的に学習に 取り組む態度
単元の評価 規準	用言・助動詞について理解して本文を読解している。	①和歌を中心とした表現の特質を味わっている。 ②作品の設定の意図や内容を読み取り、作品の価値について考えている。	和歌と物語の関係性に興味を持ち、他者との関わりの中で自らの解釈を深めている。
学習活動に 即した具体的 な評価規 準	用言の活用、助動詞の文法的意味を理解して現代語訳している。	①和歌に込められた心情について考察している。 ②作品の意図と内容について自分なりに考察をし、他者と意見交換をし、自分の考えを深めている。	和歌に込められた心情を想像しながら本文を読み味わい、他者との関わりの中で理解を深めている。

## 4 指導観

### (1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領「言語文化」の2内容〔思考力判断力〕B読むこと（1）ア「文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること」及びエ「作品や文章

の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること」を踏まえ設定した。

『伊勢物語』は、平安前期に成立した歌物語である。在原業平とされる「男」の、様々な恋愛模様が和歌とともに描かれた短編集である。伝統的な言語文化である和歌の鑑賞とともに、平安期の人々の生活の様子を垣間見ることができ、入門期に学ぶ古典文学として最適である。文章は平易で分かりやすいため、用言、助動詞、語の意味など、古文学習の基礎となる重要項目を確認しながら学習を進めることができる。この単元では、「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」を学習し、それぞれの作品で様々に描かれる人間の心情について考えさせ、古典文学のもつ普遍性について気付かせたい。

### (2) 生徒観

対象生徒は〇年〇組 40 名である。古文については〇年次から古典文法に関する先取り学習を行ってきた。定着の度合いに差はあるが、古典文法の知識を利用して古文を読解することができる。国語の学習については意欲的で、作品を背景まで含めて深く読み込むことが得意である。また、他者と協働して学習することを積極的に行うことができる。

### (3) 教材観

「芥川」は、「男」が身分違いの「女」を盗み出したものの女は鬼に食われてしまい、男は悲嘆にくれるというあらすじである。この「女」はのちに清和天皇の後となった藤原高子であるとされている。教科書の本文は「男」の和歌で終わっているが、本来はこの続きに「女の兄弟が女を連れ戻した」という後日談が続いている。今回は、女が藤原高子であることは触れず、結末の違いによる作品の印象の違いから、「男」の心情への理解を深めさせることを中心とした。品詞分解、現代語訳を書くワークシートを予習で課し、基礎知識を生かしながら自力で古文を読み解くことを行いつつ、和歌に込められた心情や、物語に現れる人間関係の機微など、人間の心の繊細な部分に対して理解を深めることができる教材である。結末の違いによる作品の味わいの違いについては、この後学習する『羅生門』の結末の違いの解釈と作品の評価の活動につなげていきたい。

## 5 年間指導計画における本単元との関係

言語文化は、2 単位である。1 単位時間は 45 分。現代文、古文、漢文の 3 つのジャンルを 1 年間にわたって学習する。本単元は、平安期の物語と近代の小説の歴史的な関連性を考えるために、1 学期の最初に設定している。

1 学期	現代文：随筆『言葉の力』 小説『羅生門』『夢十夜』 古文：歌物語『伊勢物語』『芥川』『東下り』『筒井筒』『梓弓』 漢文：故事成語「塞翁馬」史伝「管鮑之交」「刺客荆軻」
2 学期	現代文：随筆「なぜ日本語で書くのか」「虹の雌雄」「失われた両腕」「物語る声を求めて」 古文：随筆『徒然草』『つれづれなるままに』『ある人、弓射ることを習ふに』『名を聞くより、やがて面影は』『花は盛りに』『方丈記』『ゆく河の流れ』『仮の庵』 軍記物語『平家物語』『木曾の最期』 漢文：史伝「那須宗高」、中国古典思想
3 学期	現代文：韻文「小諸なる古城のほとり」「竹」「樹下の二人」「二十億光年の孤独」「崖」「I was born」 短歌 俳句 古文：和歌 『奥の細道』『白河の関』『立石寺』 漢文：唐詩

## 6 単元の指導計画と評価計画 (全8時間扱い)

時	目標	主な学習活動	具体的な評価規準 評価方法
第1時	「芥川」を、文法の知識を生かして読解する。	1. 予習の内容をグループで共有し、内容を確認する。 2. 現代語訳の確認と共に、音読によりリズムを体感する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ①特色ある表現を味わっている。(観察) ウ和歌に興味をもち、読み味わっている。(観察)
第2時 (本時)	「芥川」の結末の違いによる味わいの違いを考察し、作品の理解を深める。	1. 「男」と「女」の関係性について考察する。 2. 結末の違いがどのような印象の違いを与えるかを考察する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ②作品の意図と内容について自らの考えを深めている。(ワークシート、観察) ウ自らの解釈を他者との関わりの中で深めている。(ワークシート)
第3時	「東下り」を、文法の知識を生かして読解する。	1. 予習の内容をグループで共有し、内容を理解する。 2. 現代語訳の確認と共に、音読によりリズムを体感する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ①和歌に込められた心情について考察している。(ワークシート、観察) ウ和歌に興味を持ち、読み味わっている。(観察)
第4時	「東下り」のあらすじと和歌の関係について考察し、和歌の役割について理解を深める。	1. 和歌を手掛かりに、登場人物の心情について理解する。 2. 和歌が物語の中で果たしている役割について考察する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ②作品の意図と内容について自らの考えを深めている。(ワークシート、観察) ウ自らの解釈を他者との関わりの中で深めている。(ワークシート)
第5時	「筒井筒」を、文法の知識を生かして読解する。	1. 予習の内容をグループで共有し、内容を理解する。 2. 現代語訳の確認と共に、音読によりリズムを体感する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ①和歌に込められた心情について考察している。(ワークシート、観察) ウ和歌に興味を持ち、読み味わっている。(観察)
第6時	「筒井筒」における登場人物二人の関係の変化について考察し、心情を	1. 和歌を手掛かりに、登場人物の心情について理解する。 2. 和歌が物語の中で果たしている役割について考察する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ①和歌に込められた心情について考察している。(ワークシート、観

	理解する。		察) ウ自らの解釈を他者との関わりの中で深めている。(ワークシート)
第7時	「梓弓」の現代語訳・文法項目を確認し、内容を理解する。	1. 予習の内容をグループで共有し、内容を理解する。 2. 重要語句、文法項目について確認する。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ①和歌に込められた心情について考察している。(ワークシート、観察) ウ和歌に興味を持ち、読み味わっている。(観察)
第8時	「梓弓」における男女の関係について考察し、心情を理解する。	1. 和歌を手掛かりに、登場人物の心情について理解する。 2. 和歌が物語の中で果たしている役割について考察する。 3. ここまでの学習を踏まえて、歌物語の表現の特徴や作品の価値について考察し、他者と意見交換をする。	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察) 2. イ①和歌に込められた心情について考察している。(ワークシート、観察) ウ自らの解釈を他者との関わりの中で深めている。(ワークシート) 3. ②作品の意図と内容について考察をし、他者の意見を踏まえて自らの考えを深めている。(ワークシート、観察) ウ自らの解釈を他者との関わりの中で深めている。(ワークシート)

## 7 指導に当たって

### (1) 授業形態の工夫

講義形式ではなく、グループ学習を主体とし、あらすじの確認と重要文法項目の確認を行う。作品の内容に関する考察についても、グループ内での意見交換と全体への発表を行い、各自が他者の意見を踏まえて自分の考えを深められるようにする。

### (2) 指導方法の工夫

古文の授業は細かい文法の解釈や現代語訳のみに終始しがちであるが、今回の授業では、内容理解を中心とし、作品そのものを鑑賞することを目的とする。古文を読むことの面白さや、普遍的な人間像が伝わる展開としたい。また、「女」が藤原高子であることについては触れず、予備知識のない状態で男女の関係にフォーカスして作品を味わわせる。意見共有については Teams を利用する。また、最後に Forms を利用して意見を提出させ、次時以降、Teams 上で意見共有を行う。

## 8 本 時 （全 8 時間中の第 2 時間目）

### （1） 本時の目標

- ・「芥川」の結末の違いによる味わいの違いについて考察し、作品の理解を深める。

### （2） 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価基準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文単語テスト</li> <li>・前時の内容、本時の目標の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容を確認し、本時の目標を提示する。</li> <li>・ワークシートを配布する。</li> </ul>	
展開① 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な文法項目について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に取り組んだ本文解説の続きを行う。</li> </ul>	1. ア文法知識を活用して解釈している。(ワークシート、観察)
展開① 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「男」と「女」の関係について個人で考察する。</li> <li>・本文の続きを読み、続きがあるのとならないのでは、本文の味わいにどのような違いがあるかを個人で考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の考えをワークシートに記入させ、グループで議論を行わせる。</li> <li>・「女がいなくなったのは兄弟たちが連れ戻したからである」という本文の続きの文章をワークシートで提示し、男にとっての現実と伝えられている事実の違いについて比較させる。</li> <li>・本文の表現に根拠を探すように注意する。</li> <li>・身分の違いや、シチュエーションの異常性について注意を促す。</li> </ul>	ア本文の表現を参考にして男女の関係を考えている。(ワークシート、観察) イ②作品の意図と内容について自らの考えを深めている。(ワークシート、観察)
展開② 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察した内容についてグループで共有し、結論をまとめる。</li> <li>・結論を全体に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人のグループを10班作る。</li> <li>・「男」と「女」の関係性については、グループで結論をまとめるよう指示する。</li> <li>・本文の味わいの違いについては、結論はまとめず、様々な意見を傾聴するよう指示する。</li> <li>・グループで出た結論や意見について、Teams上のパワーポイントに入力させ、各グループに発表させる。 (予想される生徒の反応) 【「男」と「女」の関係】</li> <li>・「『え得まじかりける』と書いてあるから、身分が違う」</li> <li>・「貴族の女性は家から出ないから、かなりイレギュラーな関係」</li> <li>・「駆け落ちするくらい愛し合っていた」</li> </ul>	イ②作品の意図と内容について、グループ学習を通して考察を深めている。(ワークシート、観察)

		<p>【味わいの違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「和歌で終わった方が、男の悲しみが余韻として残るからよい」</li> <li>・「最後の文章は蛇足だと思う」</li> <li>・「本当は生きていることが分かるから、この後の展開にいろいろな想像ができる」</li> </ul>	
まとめ 5分	・他のグループの発表後、再度考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の味わいの違いについて、他グループの意見を踏まえてもう一度考察し、Forms で送信させる。</li> <li>・他グループの意見を受けて、考えが変わってもよいことを注意する。</li> </ul>	ウ自らの解釈を他者との関わりの中で深めている。(ワークシート)

### (3) 授業観察の視点

- ・本文を基に様々なことを推測する方法は、生徒の主体性を引き出していたか。
- ・ICTの活用は適切であったか。